

## 解 答

1 (B)	2 (A)	3 (B)	4 (B)	5 (A)	6 (C)
7 (C)	8 (A)	9 (A)	10 (B)	11 (B)	12 (A)
13 (D)	14 (A)	15 (D)	16 (D)	17 (B)	18 (A)
19 (B)	20 (B)				

1. 「ナオミが今夜パーティーに来るかどうかを知る方法はない」

▶ There is no way of doing で「～する方法はない」という意味の慣用句。

[例] *There is no way of knowing that.*

(それを知るすべがない。)

cf. **There is no way to do** 「とうてい～できない」

*There is no way to know the exact number of stars in the sky.*

(空にある正確な星の数を知ることはとうていできない。)

2. 「私の新しいバスケットシューズはとても軽い。履くと、まるで空を飛べるかのようだ」

▶ 助動詞の過去形 could が使われていることから, as though[if] + 仮定法過去「まるで～であるかのように」がふさわしい。

▶ (C)は feel like doing で「～したい気がする」, (D)は even though で「～ではあるが」という表現であるが, 前後関係・文意に合わない。

□ **as if [as though]** + 仮定法「まるで～のように」

▶ 入試では「as if [as though] + 仮定法過去」の出題がほとんど。

*Vincent talks as if he knew everything.*

(ヴィンセントは何でも知っているような口のきき方をする。)

▶ 「～した[であった]かのように」の意味の時には仮定法過去完了を用いる。

*He looks as if he had seen something horrible.*

(彼は何か恐ろしい物を見たような顔つきをしている。)

3. 「試験勉強を早く始めれば始めるほど、それだけいいよ。」

▶ The sooner, the better. 「早ければそれに越したことはない」という比較級を用いた慣用表現をベースにした英文である。

□ **the + 比較級～, the + 比較級… 「～すればするほど、ますます…」**

▶ 関連し合った 2 つの動作や状態が、互いに比例関係を保ちながら、程度を増したり減じたりしていく場合に使われる。

*The more I study, the more I know.*

(学べば学ぶほど、それだけ知識が増える。)

4. 「ビル、そのジョーへの手紙を明日の朝までに投函することを忘れないで」

▶ 空欄を含む節(文)の主語が無生物の the letter であるから, mail「郵送する」という動詞を使う場合は受動態になるので, (B)か(D)に絞ることができる。未来完了の際に用いることができる助動詞は will または shall であるから, (D)を入れることはできない。

5. 「エミリー=ディキンソンは、存命中は事実上ほとんど知られていなかったが、今日彼女はアメリカの最も独創的な詩人の一人として認識されている」

▶ カンマをはさんで前半と後半の内容が対比的になっていることを考えれば、逆接の従属接続詞 although が最適である。(B)even「～でさえ」, (C)despite「～にもかかわらず」, (D)however「しかしながら」。

□ **although ~ 「～だけれども」 (= though ~)**

*Although Mary missed the last train, she was able to get home.*

(メアリーは終電車に乗り遅れたけれども、家に帰り着けた。)

▶ although は though よりもやや堅い語。

□ **recognize A as[to be] B 「A を B だと認める」**

*She is recognized as[to be] the best figure skater in the country.* [受動態]

(彼女は国内でフィギュアスケートの第一人者だと認められている。)

6. 「私は、ジュディは2歳くらいの時から名古屋に住んでいると思う」

► 繙続の意味を表す現在完了進行形(has been living)が用いられている節中なので、接続詞 since「～以来」が適切である。

現在完了形とともに使うことができる表現			
(1)『完了・結果』	<input type="checkbox"/> just「ちょうど今」 <input type="checkbox"/> yet「(疑問文で)もう;(否定文で)まだ」	<input type="checkbox"/> already「もう」 <input type="checkbox"/> now「今」	
(2)『経験』	<input type="checkbox"/> ever「かつて」 <input type="checkbox"/> before「以前に」 <input type="checkbox"/> often「しばしば」	<input type="checkbox"/> never「一度も～ない」 <input type="checkbox"/> once「かつて、一度」 <input type="checkbox"/> sometimes「ときどき」	
(3)『継続』	<input type="checkbox"/> for ~「～の間」 <input type="checkbox"/> How long ~?「どのくらいの間～(ですか)」	<input type="checkbox"/> since ~「～以来」	

7. 「野球の試合に誰と行くつもりなのか教えてくれない?」

► Would[Do] you mind doing? 「～していただけませんか」という『依頼』の表現となる(C)が適当である。『許可』を求める Do[Would] you mind my[me] doing? と混同しないように注意。

Would[Do] you mind doing? 「～していただけませんか」『依頼』

Dad, if my grades improve by the end of the term, would you mind raising my allowance?

(お父さん、学期末までに成績が上がったら、お小遣いを上げてくれますか。)

cf. Do[Would] you mind my[me] doing? 「～してもいいですか」『許可』

Would you mind my[me] leaving my seat for a moment?

(少しの間席を外してもいいですか。)

Of course not. (もちろんいいですよ)

8. 「試験に語彙の問題があるかどうかわからない」

► 文末の or not に注目すれば, whether S V or not「S が V するかどうか」という表現が適切であると判断できる。

► if/weather は「～かどうか」の意味の名詞節を導く。if と wheter は、ほぼ同じ意味であるが、口語では if のほうが好まれる。

名詞節を導く whether と if の用法比較						
	主語	形式主語構文で真主語	他動詞の目的語	前置詞の目的語	補語	同格
whether 節	○	○	○	○	○	○
if 節	×	○	○	×	×	×

9. 「ここにあるほとんどの車はドイツで製造されました」

► 空欄の後の複数形の cars を修飾できるのは選択肢の中で(A)の most だけである。(B)の almost は副詞なので名詞を修飾することはできないし, (C)のように most of とするならば修飾される名詞の前に定冠詞や所有格の代名詞がなければならない。さらに, most が「ほとんどの」という意味で用いられている時には, (D)のように冠詞とともに用いることはないのが通例である。

almost と most の使い分け
<input type="checkbox"/> almost all A = most A 「(限定されない)ほとんどの A」 cf. 「ほとんどすべての学生」 almost all students = most students
<input type="checkbox"/> almost all (of) the [one's] A = most of the [one's] A 「(限定された特定の)A のほとんど」 cf. 「その学生たちのほとんど」 almost all (of) the students = most of the students

10. 「あまりに早く起きる時はいつだって、そのあと一日中集中することができないみたいだ」

► 文意から判断する。英文は主節も従属節も現在形なので、特定の事実でなく一般論を述べている。したがって、(B)の whenever「～するときはいつでも」が適切で

ある。(A)whereas「～という事実からみれば」,(C)however「しかしながら」,(D)whether「～かどうか」。

□ **whereas** ~ 「～だが一方(= while)/～という事実からみれば」

He is tall, whereas I'm short. (彼は背が高いが、私は低い。)

▶ 頻出ではないが、選択肢の一つとして出題の多い接続詞である。

11. 「外見は、私の姉たちはとてもよく似ている」

▶ look alike で「似ている」という表現である。

[例] The two boys *look* more *alike* than I thought.

(2人の男の子は思っていたよりもよく似ている。)

□ **in appearance** 「外観は/見たところ(は)」

This is an ordinary home *in appearance*, but actually it is a Japanese restaurant.

(ここは見たところ普通の民家だが、実は料亭だ。)

12. 「シアトルへのフライトは、強風のために予定より遅れた」

▶ behind schedule で「予定より遅れて」という表現になる。

[例] The train arrived five minutes *behind schedule* [time].

(列車は5分遅れて到着した。)

▶ 時間の開きを示す数値・表現は behind の直前に置く。

□ **due to** ~ 「～のために/～が原因で」 (= because of/on account of owing to)

I was half an hour late *due to* the heavy traffic.

(車が多かったので、半時間遅りました。)

13. 「プリンスホテルのコーヒー一杯は、その隣の喫茶店のコーヒー一杯の倍の値段だ」

▶ 同等比較の倍数表現を用いた文である。be動詞が用いられている文なので、空欄には形容詞が入る。「値段が高い」という意味を表すのは expensive である。

▶ (A)worth図「～に値する」,(B)price図「価格」,(C)cost図「費用」。

14. 「残りの人生をこの会社のために働いて費やす気はない」

▶ have no intention of doing で「～するつもりがない」という表現になる。

▶ (A)intention「意図、意志」,(B)aim「目標、目的」,(C)wish「願望、希望」,(D)idea「考え、思いつき」。

□ **spend A doing** 「Aを～するのに使う」

She *spent a lot of money traveling*.

(彼女は旅行にたくさんの金を使った。)

▶ spend A *in[on] doing* とすることもある。

15. 「駅まで自転車で行けば、かなりの時間の節約になるよ」

▶ 「(お金や時間などを)節約する」という場合は、save を用いる。

[例] Your help *saved* me a lot of work.

(あなたが手を貸してくれたのでとても手間が省けました。)

16. 「古い歴史的建造物を修復することは重要である」

▶ (D)restore図「(古い建築物・美術品など)を修復する、復元する」,(A)revise「～を改訂する」,(B)rearrange「～を配列し直す」,(C)remain「～のままである」。文意より(D)が最適である。

17. 「ピーター、シャワーから水が漏れているわよ。ちゃんと閉めてね」

▶ **turn off** ~「(ラジオ・テレビ・電灯など)を消す、(ガス・水道など)を止める」

[例] She *turned off* all the lights which had been left on.

(彼女はつけっぱなしの明かりを全部消した。)

▶ 「電灯[テレビ]をつける[消す]」は switch on/off ~とも言う。

□ **turn down** ~ 「(ラジオなど)の音量を小さくする」

□ **turn out (to be)** ~ 「～であることがわかる」 (= prove (to be) ~)

□ **turn away** 「(…から)顔をそむける」

18. 「マイクは具合が良くなさそうだ。彼の健康が本当に心配だ」

- ▶ be concerned[anxious] about ~で「～を心配している(= be worried about)」という表現になる。

[例] *She was very concerned about the test results.*

(彼女は試験の結果をとても心配していた。)

*I am anxious about his health.*

(私は彼の健康が心配だ。)

cf. **be concerned with** ~「～に関係している/～に关心を持っている(=be interested in)」と混同しないように。

*This story is concerned with an American family in this century.*

(この物語は今世紀のアメリカのある家族に関するものである。)

*She is not concerned with politics.* (彼女は政治に关心がない。)

19. 「京都に車で行くことを考えているのなら、ゴールデンウィークだということを考慮に入れる必要があるだろう」

- ▶ take A into account[consideration]で「A を考慮に入れる」という表現になるので(B)が正解である。(A)thought「思考, 考え」, (B)account「勘定書, 報告, 考慮, 理由」, (C)plan「計画」, (D)regard「尊敬, 配慮」。

[例] *You must take into account the fact that he is too young.*

(あなたは、彼が若すぎるという事実を考慮しなければならない。)

▶ 目的語が長い場合は, take into account A の語順になる。

▶ 「～を考慮に入れる」という表現にはほかに **take account of ~/allow for ~**などがある。

#### 【重要単語】account

■ (ある割合を)占める(for ~)/(～の)原因となる(for ~)/(～の)(理由・原因を)説明する(for ~)

- account for a half of ~ (～の半分を占める)
- The typhoon accounted for the closing of school.  
(台風のために休校になった。)
- The theory accounts for a number of facts scientists have learned about the moon.  
(その理論は科学者たちが月について知った多くの事実を説明している。)

■ 報告, 記述; 銀行口座; 勘定書; 考慮; 理由

- give a detailed account of ~ (～の詳しい報告をする)
- take account of him = take him into account (彼を考慮に入れる)

20. 「ジョージがパリに到着してからもう一年になるから、彼のフランス語は今ではとても上手いに違いない」

- ▶ 文の意味から判断すると, moved in Paris「パリに引っ越した」もしくは arrived in Paris「パリに到着した」の2つの可能性が考えられる。move in の後にくるのは houseなどの名詞で, たとえば「田舎に引っ越す」など地域に引っ越すという場合は move to を用いる。arrive の場合には, 一般的な arrive at の他, arrive in という言い方も可能。at は目的地が地点の場合に用い, in は広い地域の場合に用いる。